

会議結果報告書

1. 会 議 名 令和6年度 第2回 印西市環境推進市民会議
2. 日 時 令和6年7月5日（金）9:30～11:30
3. 場 所 市役所大会議室
4. 出席委員：山崎会長、白川副会長、富川委員、橋本委員、福井委員、村形委員、渡辺（壽）委員、
渡辺（統）委員

事 務 局：岡本環境保全課長、海老原保全係長、清田主査補、本庄主事

5. 傍 聴 者 0名

6. 配布資料

・会議次第

7. 内容

（1）開 会

（2）会長挨拶

（3）議 事

①いんざい環境フェスタの報告

—いんざい環境フェスタについて事務局より報告—

議 長：当日参加した皆様から、今年度のフェスタの感想と、来年度に向けて何か改善点などがあればご意見いただきたい。

委 員：午前中の半分の時間しか居られなかったが、たくさんの来場者がいたというのが第一の感想だった。私たちのブースのところでやはりたくさんの人が集まっていたという状況で、最初は何とかクイズを2問やるという形を取っていたが、1問目のところで時間がかかると流れないということもあり、途中からどちらか1問ということでやった。しかし、一方でクイズをやっていると、もう一方で終わっていても移動ができないということがあったため、ブースの作り方、どのように机を配置して、人がどう流れたらスムーズにいかを来年度は考えた方がいいと感じた。

委 員：全体的には今委員が言ったように大盛況で、とても暑かったため、体力的にダウンしてしまいそうだった。流れとしては、どの程度クイズを丁寧に説明するかは委員により様々であったため、その辺の統一感を話し合っておけばよかったと思う。また、多分暑かったせいだと思うが、配布していた風船が割れてしまっていたため、それは危険を知らせないと良くなかったように感じた。

委 員：午前午後いたが、2年前と比べたら混み合う時間帯が全然違っており、2年前は昼から昼過ぎぐらいに混んだのが、今年は10時11時前後が混んでおり午後はそうでもなかった。その時間帯は、やはりどうしても集中してしまうため、列ができてしまうということはあると思う。問題の量としては良いとは思いますが、問題の質が、カーボンニュートラルの問題はわからない人が多く、どうしても説明が長くなる。そういう点では、カーボンニュートラル一問でも良かったのかなという気もするが、ザリガニの方が子供たちはわかりやすく、カーボンニュートラルの方が少し大人向けの質問のような気がするので、その辺をうまく分けて、1問だけで流せばよかったと思う。とにかく、2年前の人の多さに比べれば、今年は比較的すんなりいったのではないかなと思う。

委員：私は当日、朝から最後まで、千葉県から借りた機材を使って、省エネ診断を行った。省エネ診断を受けたいという方がひっきりなしに来たため大変だった。全部で24名の診断を、一人当たり20分前後で行った。省エネ診断をやって感じたことは、家に太陽光発電をつけている方が数名おり、太陽光発電は、電気代はタダでむしろプラスになるということだが、そういう方こそ、熱を作るところでガスを使っていることも多く、エネルギーが全体でゼロになっていない家庭もあった。私は全部を見てはいないが、温暖化防止印西のブースにもかなりお客さんが来て、3人ぐらいで対応したが、大変だった印象である。また、どこかのブースで、朝顔か何かの苗を配っており、1つしか提供していなかったが、1つでは成長しないらしく、2つあって初めて成長するということを聞いたため、配る団体はその辺を考えて欲しかったと思っている。

委員：私は午後の部に参加し、今回初めてだったが、イベントの入場者・来場者、あるいはブースへお越しになる人のカウントなどは、これまでも取っていないのかを聞きたい。取っていないということであれば、こういうイベントをするときには、データの的にカウントをしておく必要があるのではないかと思います。

事務局：スタンプラリー用紙の配布枚数をもってカウントしているとのことである。

委員：スタンプラリーの用紙の枚数が何枚出たかということで全体的にカウントしているということか。なぜこの点について聞いたかということ、お土産を渡すテーブルにいたが、なくなって補充するということをしていたため、来場者のデータがあると慌てなくて済むのではないかと感じた。そればかりでなく、イベントの時のデータというのは取っておく必要があるのではないかというのが感想である。

委員：先ほど委員からあったように、2年前に比べると楽だったと感じたが、私は午後しか出ていないため、午前中が恐らく多かったんだろうと思う。

委員：私も初めて参加させていただき、午前中は少なく午後が忙しいと聞いていたため、今年は逆だったようで少し肩透かしという感じがした。先ほどあったように、アメリカザリガニは子供が非常に興味を持って熱心に聞いてくれるが、カーボンニュートラルになると、子供対象にする説明の仕方がわからず、大人だと言葉は説明したりするが、子どもに「カーボンニュートラル」は、なかなかわかりづらいなと思いながら説明していた。このカーボンニュートラルに対して市民が役に立つにはどうしたらよいかといった例が書いてあり説明すると、子供たちは、トイレの電気が点けっ放しだということをお母さんから注意されるなどと、そこで咀嚼して帰っていかれたということもあったため、例があると子供には説明しやすかったと思った。子供対象なのか大人対象なのかというところで、説明の仕方を変えるか、掲示物の趣を変えておくかということを検討しておいた方がよかったかもしれない。

委員：私はカーボンニュートラルのクイズ作った立場で、小学校高学年から大人の方向けというイメージでクイズは作らせてもらったが、皆さん親子で来場することを考えると、大人だけに話すわけにもいかないため、もう少し難易度を下げて、小学校低学年や小さい子供たちにわかりやすいようなクイズにした方が良かったかもしれないと、今ご意見いただきながら感じている。

委員：当日最初に板倉市長がゼロカーボンシティの宣言を読み上げた。ゼロカーボンシティを宣言した都市が千葉県にたくさんあるが、人口10万人以上の都市で、印西市は最後の表明に

なる。私たちのブースでは、最後のチャンスに宣言したんですよということを来場者に説明した。

委員：先ほど事務局からエコカレンダーを30部ほど印刷してほとんど全て持って行ってもらえたという話があったが、私自身も渡すときにとっても喜んでもらえたと思っている。ただ、印刷に難があるということはあったため、せっかくならもう少きれいなもので渡せたらということでは感じた。予想外にエコカレンダーを喜んでいただけたため、小さな予算でも良いので、30部や100部など印刷する予算を取っていただけないかなということでは思った。

②環境基本計画の推進に係る取組の検討（グループワーク）

議長：議題1について他になければ続いて議題2 環境基本計画の推進に係る取組の検討ということ、グループワークの時間としたい。グループワーク後の発表はどうするか。

委員：実質的な進捗はないと思うため、今日は発表なしで構わない。

委員：エコカレンダーのグループからは進捗を少しお話させていただくため、何かあればグリーンインフラグループからもお願いしたい。

議長：このあと、事務局から視察研修を終えて市民会議からの質問についての説明があるため、グループワークは11時10分までとさせていただく。

ーグループワークー

議長：時間となったため、話し合いを終了し、グリーンインフラグループから本日の検討経過の発表をお願いする。

委員：欠席者もいたため大きな進展はないが、グリーンインフラグループとしては、条例の案を進めていくということと、条例の中にはモデル地区として別所谷津公園を一番の候補としたいということを再確認し、その問題点についても整理した。また、7月に市長選があるため市長がどうなるかわからないが、前回の市長との会談でホテル課を作るというような話もあったため、市長とのコンタクトを取り続けていきたいという話をした。また、エコカレンダーの案を一通り見て、最後の30by30目標については、まだ途中であるため内容がこれから入ってくるとは思うが、もう少し説明が欲しいと思う。先ほどの話の中で、ゴーヤの苗が2本ないとできないということがあったが、ここにゴーヤの写真があるため、その説明が一言あってもいいという気がする。

委員：確証がある話ではないため、記載はしなくても良いと思う。

議長：ゴーヤについては私も調べてみたいと思う。続いて、エコカレンダーグループの発表は、私からさせていただく。事務局に印刷していただいたものを皆さん見ていただいていると思うが、デザインとしては1か月ごとのカレンダーとしての発行で作成を進めている。今日は、表紙や内容に関して、こういう情報を載せた方が良いのではないか、写真はこういうものにしたらどうかという意見や知恵を出し合った。これを踏まえ大体の案を作成し、次回会議が少し先になるため、次回会議までの間に一度、できたものをメールで送り、ご意見いただくような形を取ることを予定している。

議長：他に意見等がなければ本日の議事を終了する。

（４）その他

事務局：以前いただいていた「視察研修を終えて市民会議からの質問」に対する回答をお配りしてい

る。ご一読いただき、ご質問等があれば後日事務局までいただければと思う。

委員：皆様のお手元に参考資料としてお配りしているものについて説明したい。印西市が5月31日にゼロカーボンシティの宣言をし、環境省が一般にわかるようにしている資料である。この資料の1098番目が印西市であるが、主な取組・施策の枠には「計画改定による策定中」という記載があり、まだ決まっていないという一言が載っているため驚いた。この資料は160ページくらいあるものの一部であるが、計画は検討中ということを書いているのは印西市しかない。なぜこのような表現となったのか聞きたい。

事務局：現在の計画の中で取り組んでいるものは実際あるが、新たな部分、拡充していくという意味では、ここで計画を改定する予定のためこのような記載となっている。

委員：とりあえずこのように記載したが、新たなものができたら差し替えるということか。

事務局：その予定である。

委員：それはいつ頃になるのか。

事務局：今年度中を予定している。国の補助事業を活用し業務委託で計画の改定を予定しており、これから市民・事業者の方に意見をいただきながら、実効性のある計画を作っていきたいと考えている。

委員：視察研修を終えて市民会議からの質問への回答に関して伺いたい。質問4の回答の部分について、この質問は私が作ったが、データセンターの空調機が処理する廃熱はとてつもない量になると考えられるため、これをどう考えているかという質問である。データセンターの空調機が処理する排熱はエアコンの室外機の排熱温度程度と回答があるが、だからこそ、とてつもない量になるのではないかと言いたい。資源エネルギー庁が出す数値でいうと、印西市の年間消費電力は約15.3億kWhであり、冷房だけでなく暖房も入っているためなんとも言えないが、夏場エアコンをバンバンかけた場合、かけない場合と比べ、電気代が倍くらいになるのではないかと踏まえ、消費電力の半分、大体7〜8億kWhがエアコンに使われると仮定すると、データセンターは、この試算では10.7億、それ以上の電力を使うという計算になる。印西市全部のエアコンの排熱が、データセンターあたりの田んぼに向かってドーンとまとめて排熱されることになる。

事務局：実際に空气中に排出される温度は35度とかそのような温度と聞いている。冬場であれば冷たい空気を使ってサーバーの温度を下げると思う。

委員：冬は周りの外気温度が上がる。夏はすごく上がるのではないか。

事務局：例えば50度60度などと燃やして上がるような排熱ではないという認識である。

委員：都心ではヒートアイランド現象があり、これはビルの排熱が多いため、周りの東京都の温度より、ビルの周辺は2〜3度上がってしまう。ビルの排熱でそれくらい上がるため、印西市全体の電気消費量以上の電力を使うデータセンターの排熱が田んぼに向かって流れることを考えると、田んぼ周辺の外気温が2〜3度上がることや、田んぼに限らず、農家が育てている農作物などへの影響について、どう見積もっているかという質問である。

事務局：データセンターで消費する電力の中にはサーバー等も含まれると考える。

委員：データセンター内の消費エネルギー量の約35%がサーバーを冷却する空調機であると言われている。これを踏まえて、10.7億kWhが空調機に利用される電気ではないかと試算している。サーバーを冷却するために常に熱交換されることによる排熱の影響で、外気温が2〜3度上がるといったことも考えられるのではないか。仮に外気温が2〜3度上がったとすると、

稲の生育等に影響はないのかという質問であり、それをどう考えているのかということである。気温上昇について明確な根拠があるわけではないが、外気温が上がらないわけではないのではないと思う。

委員：データセンターに直接質問してはどうか。市民はこういう心配をしているがどう考えているのかと聞いてみたらどうか。

委員：回答にある「エアコンの室外機の排熱温度程度とのこと」という記載がデータセンターの回答ということではないか。そういうことであれば、とんでもなく影響が出るのではないかということ进行を言いたい。2〜3度上がったとしたら、周辺の稲の生育への影響があるのではないか。データセンターからの排熱で2〜3度上がったとしても、田んぼの辺りは上がらないという試算をしているのか、建物を建てる際に風向などを調査するのと同様に、排熱の影響も試算して当然ではないかということである。試算したけど影響はないということなのか、試算はしていない、室外機の排熱温度程度ということは、影響はないと見ているということなのか。

事務局：現状試算はしていない。

委員：試算はしていない、影響はないと見ているという回答と理解するが、今後、外気温や田んぼの水温などを調査していった方が良いのではないと思う。

委員：データセンターの室外機は触ることができるのか。建物の外に大きい排熱気孔があると思うが。

事務局：データセンターの外についているものは、発電機のマフラーということである。

委員：マフラーは自家発の排熱ということであれば普段は稼働しておらず、室外機の排熱については、田んぼに向かっているというよりは、データセンター近辺で排熱されているということか。

事務局：室外機をイメージしていただければと思う。

委員：温度が上がらないということか。ヒートアイランド現象では室外機の排熱が影響しているため、この辺ではもっと影響を受けるのではないかと考えての質問であった。この辺では希釈されるということか。これからのデータセンターはどういう空調計画になるかはわからないが、地下水利用であれば、地下水への影響も考えられる。

事務局：地下水利用の場合は、お湯を流すということではなく、再利用しながら冷却するものと聞いている。

委員：試算していない、調べていないということであれば、今後、水温や外気温を調査していただきたい。

委員：各業者が周辺への影響をどう考えているということを質問しているわけであり、結局今考えていないということであれば、どう変わっていくのかを市としても追跡調査しなくては行けないのではないかと行結論になる。難しいとは思うが、影響を試算して欲しいとは思行。

委員：その地域に住んでいる人たちが一番心配しているのではないか。例えば、ビッグホップの前にデータセンターができているが、今まであんな大きな建物がなかったため日当たりが良かったのに、日当たりが悪くなるのではないかなど、近くに住んでいる人はどう考えているのかと思う。近隣住民からそういう声は届いていないのか。

事務局：建設に際して反対の署名が挙がっているということは聞いている。

委員：逆にそういう人に声をかけて、見張り役ではないが、環境の変化をとらえていただくのも一

つではないか。

委員：あそこそヒートアイランドが起こる可能性があるのではないか。街中にあるため、夏は、周りが32、3度でも、あそこは33、4度だとか、少し上がってしまうかもしれない。

委員：地球全体のことを考えると温度が上がるのは良くないことで、特に身近に住んでいる人は、今までの環境とは違う環境になっていってしまうことがとても心配なことなので、市の取組も大事ではあるが、市と皆で一緒にデータセンターを見守っていくというか、問題があればここは直してくださいと言えるシステムを作ってもらった方が良いと私は今話を聞いて思った。

事務局：事業者会議には大和ハウスにもご参加いただく予定のため、聞くことは可能と考えている。

委員：このところよく新聞で印西市のデータセンターの記事が入っている。6月上旬大規模な変電所が運転を始めたと、東京電力パワーグリッドが整備したもので、この地区の電気供給量を1.5倍の170万kWに増やせるという記事もあった。これからもこういった記事が頻繁に上がるだろう。

委員：市としても、データセンターがこれだけ来るのであれば、市民の声を聞いて、こうしていますと回答できる体制を整えておいていただいた方が良いかと思う。ビックハウスの前には1棟だけでなく、まだ2棟立っており、それだけでも排熱量や、景色・景観、住んでいる環境も変わっていると思う。音はすごくうるさいし、暑くなったかどうかはわからないが、環境が変わっているという実感はある。

委員：住民もデータを取っておけば、物言うことができると思う。

委員：温度のモニタリングについては、温度計があればできることはできる。

委員：データロガーがあれば記録も容易かと思う。

―事務局からの連絡事項―

(5) 閉会

以上

令和6年度第2回印西市環境推進市民会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和6年9月27日

印西市環境推進市民会議 委員 福井 章夫

印西市環境推進市民会議 委員 村形 彰治